LOVVAD SEIAOSACTISSIM SACRAMENTO

天草

AMAKUSA

～キリスト教の伝来と南蛮文化～

天草の崎津集落を世界文化遺産へ!

キリスト教の伝来と繁栄、そして激しい弾圧と永きに渡る信仰の潜伏。天草のキリシタンの歴史と文化が、世界的にも価値あるものとして認められようとしている。

羊角湾を臨む崎津の漁村に佇む崎津教会。平成23年には、国の重要文化的景観にも選ばれている

崎津の類なき信仰潜伏を高く評価

「長崎の教会群とキリスト教関連遺産」は、キリスト教の伝来と繁栄、激しい弾圧と約250年もの潜伏、そして奇跡の復活という世界に類を見ない布教の歴史を物語る資産で、天草の崎津集落や国宝の大浦天主堂（長崎市）など14の資産（14ページに紹介）で構成している。

「長崎の教会群とキリスト教関連遺産」は、平成26年度ユネスコへの推薦が決定し、平成28年度の世界文化遺産登録を目指している。

崎津集落は、ひそかに信仰を続けた潜伏集落として高い評価を受けており、なかでも顕著な価値を示す「崎津諏訪神社」「崎津教会」「水方屋敷跡」「個別要素を含む家屋群」がコアゾーン（構成資産）に設定されている。

崎津諏訪神社

禁教下において、洗礼やオラショを密かに伝承し、禁教令が解かれるまでの約250年以上もの間、潜伏キリシタンとして信仰を継続。なかでも崎津の潜伏キリシタンはメダイやロザリオの他にアワビやタイラギ貝など、海に関するものを聖遺物として信仰していた。

潜伏キリシタンが発覚した「天草崩れ」では、崎津諏訪神社が取り調べの舞台となり、信仰の対象物を境内に設置した箱に投げ捨てるように指示した。

禁教時代、この神社では潜伏キリシタンが参拝する際に「あんめんりゆす（アーメン、デウス）」と唱えていたという記録がある。

Column

世界遺産とは?

世界遺産とは、地球の生成と人類の歴史によって生み出され、過去から現在へと引き継がれてきた自然や歴史ある建物、地域のこと。今を生きる世界中の人々が引き継ぎ、守り、未来へと伝えていくべき人類共通の遺産である。

「世界遺産」の種類

世界遺産は大きく3つの分野に分けられます。

「文化遺産」…普遍的価値を有する記念物、建造物群、遺跡、文化的景観など。人の手によって生み出されたもの。
「自然遺産」…普遍的価値を有する地形や地質、生態系、絶滅のおそれのある動植物の生息・生育地など。自然によって生み出されたもの。
「複合遺産」…文化遺産と自然遺産の両方の価値を兼ね備えているもの。

信仰と迫害の歴史が共存する崎津集落

現在の航空写真

崎津諏訪神社

弾圧と復活の象徴をつなぐ道

①崎津教会②崎津諏訪神社③教会と神社をつなぐ道、そして歴史を共にした集落で構成されている。

今も祈りは天草の人々の心の中で息づく

崎津教会

羊角湾を望む漁港に佇む現在の崎津教会は、大江教会と同じく長崎の建築家鉄川与助が設計したゴシック風の教会で昭和9年に建堂された。教会内は国内でも数少ない畳敷きになっていて、日本と西洋文化の融合を示している。

建てられた土地は、崎津教会の神父であったハルブ神父の強い希望により、弾圧の象徴である「絵踏み」が行われた吉田庄屋跡が選ばれた。現在の祭壇は、絵踏みが行われた場所に配置されたと言われている。

ハルブ神父は1864年生まれのフランス人で、70歳のときに崎津教会を建てる。1941年に引退するが、1945年80歳の生涯を終えるまで、崎津を離れることはなかった。

問い合わせ
☎0969−22−2243（天草宝島観光協会）
熊本県天草市河浦町崎津539
開館：9:00〜17:00（日曜は9：30〜）
休：なし
駐車場：観光用の駐車場利用

※住所と問い合わせ先は異なります。
左記の電話番号検索では崎津教会に到着しませんので、ご注意ください。
※教会は祈りの場です。節度を持って拝観してください。
葬儀・結婚式など教会行事が行われる際は入館をお控えください。

崎津古絵図（天草コレジヨ館所蔵）

庄屋役宅(現在の崎津教会)や諏訪神社(現在の崎津諏訪神社)などが明記された古絵図。江戸時代の村の様子がうかがえる、他に類のない貴重な資料だ。
崎津教会界隈は、現在もほぼ当時と変わらない道筋が残っているという。その当時に想いを馳せながら、この道を歩いてみてほしい。

Amakusa

キリシタン文化が花開く土地、天草

16 世紀の半ばに日本に伝えられたキリスト教。
天草は、全国でも屈指のキリシタン文化が花咲く土地であった。
しかし、時代の流れはキリシタン禁止へと向かって行った。

南蛮船が運んでくる キリスト教と南蛮文化

1549年、フランシスコ・ザビエルが薩摩（今の鹿児島県）にキリスト教を伝えた。日本は戦国時代で、南蛮船が運んで来る鉄砲・火薬・毛織物などは、大名たちにとって魅力的だった。そのため、キリスト教の布教に協力する大名もいた。中には自ら洗礼を受け、いわゆるキリシタン大名となる者もいた。

その頃、熊本の天草を支配していた「天草五人衆」の一人に志岐麟泉（しき りんせん）がいた。彼は、1566年にポルトガル人宣教師ルイス・デ・アルメイダを招いて、洗礼を受けた。彼自身は1年で棄教したが、その後も天草では、多くの島民がキリシタンとなった。

異国からはるばる海を越え、自らの信ずる神の教えを広めるためにやってきた宣教師たち。孤児院を作り、日本でつつましく暮らす彼らを、天草の人は敬愛の念を持って迎えたことだろう。キリスト教だけでなく、南蛮船が運ぶ文化や風習までもが天草の人々に広まり、この地で大きく花開くことになる。

秀吉の時代になり、キリシタン禁止令が発布

キリシタンは、1570年頃は全国に2～3万人だったが、1600年頃には30万人とも言われた。「1581年度イエズス会日本年報」では、長崎を中心とする下地区（天草・五島・志岐・有馬・大村・平戸）には1万5000人と示されている。

ところが1582年、京都で本能寺の変が勃発。キリスト教を保護していた織田信長が、明智光秀によって殺された。光秀を討ち、後を継いだ豊臣秀吉は、最初はキリスト教に理解を示していた。しかし、宣教師たちが政治や軍事にまで口を出し始めると、警戒を強める。

さらに、有力なキリシタン大名であった高山右近※①に改易を迫ったが拒否されるなど、様々な状況に危機感を感じた秀吉は、1587年に、厳しいキリシタン禁制を発布。これが、いわゆる「伴天連（バテレン）追放令」だ。

※① 高山右近…肥後細川藩初代当主である細川忠利の父・忠興（妻はガラシャ夫人）と共に、千利休の高弟でもあった

日本の支配者と天草のキリシタン

1566年、アルメイダ修道士によって、天草での布教が始まった頃は、織田信長がキリスト教を擁護。信長が亡くなる前年の1581年には、豪族天草氏の領内に教会堂30余があったという。

信長の後を継いだ豊臣秀吉は、朱印船貿易には魅力を感じていたため、中途半端な禁教だった。しかし徳川家康は、神の前の平等を説くキリスト教は政治の混乱を招くものとして、禁教令を発した。

徳川3代将軍、家光の治世には、さらにキリシタンは受難の時代を迎える。南蛮寺を破壊し、キリシタンへの迫害を続け、密航者を知らせたら褒美を与えるという高札を各地に立てた。

ローマ市民に裃姿を笑われた天正少年遣欧使節のために、ローマ教皇があつらえてくれた衣装の復元（天草コレジヨ館所蔵）

初めてヨーロッパに渡った少年たち

ローマ教皇への謁見
Meeting

1582年（天正10）、宣教師ヴァリニャーノと共に、九州からヨーロッパに渡ったキリシタンが「天正少年遣欧使節」だ。伊東マンショ、千々石ミゲル、原マルチノ、中浦ジュリアンの4人は「日本の国王の王子たち」と思われ、ローマ教皇グレゴリオ13世やローマ市民など、ヨーロッパ各地で大歓迎を受けた。8年後に帰国すると、豊臣秀吉には受け入れられたものの、バテレン追放令が出された時代に変わっていた。厳しい取締りの中で、最後まで九州を中心に伝道し続けた中浦ジュリアンは、ついに捕らえられ、1633年に処刑された。

天草コレジヨ館では、ルネサンス・リコーダーやヴァージナルなど南蛮渡来の古楽器が復元展示。哀愁漂うメロディの演奏会も行われる。

天草コレジヨ
Collegio

コレジヨとはポルトガル語で、英語では「カレッジ」。宣教師を養成する大神学校だ。島原の加津佐にあったイエズス会コレジヨを、1591年に、天草の領主だった天草久種によって河内浦（今の天草市河浦町）に誘致。1597年まで、天草でキリスト教に加えヨーロッパの技術・神学・天文学・ラテン語・音楽・哲学などが伝授された。「天正少年遣欧使節」は、天草のノビシアド（修練院）でイエズス会に入りさらにコレジヨで学んだ。

天草本
Amakusa Book

「天正少年遣欧使節」が持ち帰ったグーテンベルク式の金属活字印刷機を使って、天草で活字印刷物が大量に印刷された。『平家物語』や『伊曾保物語』（イソップ物語）などの文学書や、日本語・ラテン語・ポルトガル語の対訳辞書などで、「天草本」と呼ばれる。当時としては発行部数世界一だったと思われる。熊本の離島である天草に、世界最先端の技術と文化が芽吹いたのだ。

（上）外国人宣教師が日本語や日本の歴史を勉強した「天草本」（複製）
（下）当時のグーテンベルク印刷機と同型と思われるものを復元（共に天草コレジヨ館所蔵）

「天正少年遣欧使節」に関する史料が充実。併設の「世界平和大使人形の館」には、平和を願い世界各国から届いた117体の人形が展示してある。

天草コレジヨ館

天草市河浦町白木河内 175-13
tel 0969-76-0388
【開館】9：30～18：00（入館は 17：30 まで）
【休館】月曜（祝日の場合は開館し、翌日休館）、年末年始（12/29～1/3）
【入館料】一般200円、高校生150円、小・中学生100円
※団体割引は20名から

Amakusa

島原・天草の乱 キリシタンの祈りは…

江戸時代、徳川三代将軍家光のキリシタン弾圧は激しさを増し、重税や飢饉にも苦しめられた。そんな天草に、ママコス上人（マルコス・フェラロ神父）の予言どおり現れた救世主とは！？

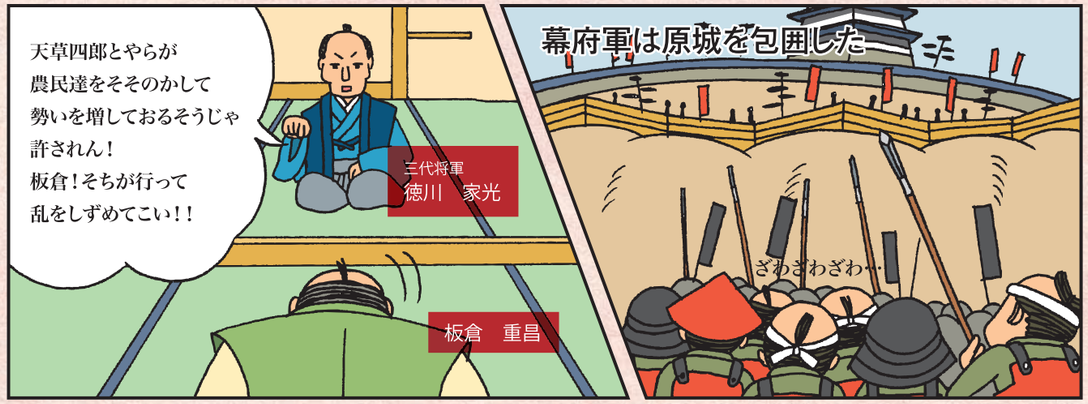
凶作、そして冷酷非道なキリシタン弾圧

関ヶ原の合戦で小西行長が敗死した翌年、天草全島の領主となったのが、肥前唐津(今の佐賀県唐津市)の城主・寺沢広高だ。1616年の検地で、天草領を4万2千石余と実際よりも多く規定し、重すぎる税を取り立てた。唐津から遠い天草を治めるため、広高は富岡(今の天草郡苓北町富岡)に築城したが、その番代(城代)の三宅藤兵衛は、1629年、志岐に"いばらの獄舎"を建ててキリシタン210余人を投獄。河内浦(今の天草市河浦町)でも"竹籠の獄舎"を設けて迫害するなど、キリシタン弾圧は苛酷を極めた。さらに、台風や凶作が続く中、希望はただ一つ。それは禁教令が発せられた翌年、上津浦教会から国外追放されたママコス上人が残していった「末鑑(すえかがみ)」に書かれた「救世主出現」の予言であった。

※②転びキリシタン…キリスト教から、一向宗（仏教）や神道など別の宗教に転じた人たち。

予言的中！　救世主、天草四郎現る

16歳で一揆軍の将となった天草四郎時貞。美少年というだけでなく、海を歩いて渡るなど、幼い時から不思議な力を持っていたという話も多い。実は、長崎で奇術を習ったという説もある。四郎の父である益田甚兵衛は、キリシタン大名・小西行長の家臣で、自らも洗礼を受けていた。関ヶ原の戦い後、甚兵衛のように失業した武士たちは農民となって生きながらえ、村のリーダーとなっていった。また、四郎の姉が嫁いだ渡辺小左衛門は、大矢野の大庄屋の息子だが、この義兄もまたキリシタンだった。キリシタン弾圧と重税にあえぐ農民を一揆軍として団結させるため、天童として名高い四郎を総大将にかつぎあげたのではないか、と言われている。



Amakusa

生きて地獄なら死んでパライソへ…

四郎たち天草勢は船で島原へ渡り、一揆勢と合流。原城に籠城した3万7000人は、農民や浪人の寄せ集めとは思えぬほど硬い絆で結ばれていた。

原城跡(赤の点線の囲みの中)

神の御旗のもとに自由の国を創るのだ!

1633年には海外渡航と渡航者の帰国が禁ぜられ、キリシタンへの弾圧は続いた。改宗を迫り、その証として「キリシタン転び証文」を取っていた(天草町の高浜村庄屋上田家文書に現存)。そんな中、神父たちは潜伏し布教を続けた。点在する島々からなる天草は監視しづらいため、潜伏に役立ったかもしれない。

苛酷な弾圧が続く中で、口ノ津(今の長崎県南島原市口之津町)で、むごい事件が起きた。年貢を納められなかった家の妊婦が、冷たい川につけられ、胎児もろとも殺されてしまったのだ。これをきっかけに、民衆の怒りが爆発。キリシタンたちは、「神の御旗の下に新しい国を創ろう」と考えた。まず島原城を乗っ取り、それから全国のキリシタンに呼びかけようとした。

そして1637年10月、天草四郎時貞が、大矢野の宮津教会において、一揆軍の総大将として擁立された。四郎は、上津浦一郎兵衛宅で法を説いたと言われている。わずか16歳とは思えない立派な演説ぶりに、キリシタンたちはママコス上人の予言どおり、「神の子」の出現を確信したのだろう。

天草・島原勢が合流 一揆軍、板倉軍を破る

キリシタンたちは、有馬の代官林兵左衛門(びょうざえもん)を襲い、さらに島原の森岳城(島原城)を包囲。その報告が江戸に届き、驚いた将軍徳川家光は早速、鎮圧するべく板倉重昌を上使とする征討軍を派遣した。

11月、まず島原一揆勢が上津浦に渡り、島子(天草市有明町)、さらに本戸(天草市本渡町)で一揆の火蓋が切って落とされた。一丸となった一揆勢のすさまじさに、唐津藩の兵1500は総退却を余儀なくされた。島子で唐津武士林兄弟は討ち死にし、本渡での攻防戦において富岡城番代の三宅藤兵衛※③は敗戦、切腹した。

番代を失った富岡城を、一揆勢はさらに攻めたが、なかなか落ちない。そのうち、熊本城主である細川氏の援軍が来るとの情報もあり、富岡城攻めを諦めて包囲を解いた。

※③ 三宅藤兵衛の母は明智光秀の娘で、細川ガラシャ夫人の姉。つまり、細川家の初代熊本藩主である忠利の従兄弟にあたる。忠利も島原・天草の乱に参戦。

島原・天草の乱のジオラマや巨大な南蛮船の模型、「四郎法度」のレプリカなどを展示。乱のすごさが伝わってくる。

天草四郎メモリアルホール

上天草市大矢野町中977-1
tel 0964-56-5311
【開館】9：00〜17：15(11〜4月は17:00まで)
【休館】1月第2水曜、6月第2水曜、12月29日〜1月1日
【入館料】高校生以上600円、小・中学生300円

50体ものマリア観音など、信仰への情熱が伝わってくる、潜伏キリシタンの遺物を展示。平成24年にリニューアルオープン。

サンタマリア館

天草市有明町上津浦美ノ越1940-1
tel 0969-45-8110
【開館】9:00〜18:00(12月〜3月は17:00まで)
【休館】なし
【入館料】一般500円、高校生300円、小・中学生100円

Amakusa

死をも恐れぬキリシタン勢。国をゆるがす島原・天草の乱

キリシタンたちの結束は固く、関ヶ原の合戦を大きくしのぐ死者を出した島原・天草の乱。その結果、日本は220年にわたり鎖国をすることとなる。

弾丸や血痕も残る、天草四郎陣中旗(天草切支丹館蔵)。旗に書かれた文字は、「いとも尊き聖体の秘跡ほめ尊まれ給え」という意味

ついに島原へ渡り、原城への籠城を敢行!

12月、四郎は海を渡って島原の原城へ入った。この当時は廃城になっていたが、原城は、かつてキリシタン大名・有馬晴信の居城であった。乱の首謀者である浪人たちが、以前から舟で天草と島原を往復し、着々と準備を進めていたため、わずか4日で籠城できるほどに修復された。

四郎に続いて、天草一揆勢約1万4000人も渡海して、原城にこもった。農民や漁民の男性だけでなく、女性や子ども、老人などもいた。キリシタンたちは、「死んでもパライソに行ける」と信じ、皆が心を一つにして戦った。

“知恵伊豆”と呼ばれた老中・松平伊豆守が参戦!

海から大きな南蛮船が近づいてきた時、一揆軍は味方だと大喜び。しかし実は、幕府の要請で長崎から来たオランダ船であった。船から大砲で攻撃され、原城内は大騒ぎとなった。

戦いの中、矢文での交渉が行われた。伊豆守は、「キリシタンでない者を城外に出せば、命を助け、年貢を減らす」と約束したが、四郎は「全員キリシタンだ」と返答。「ここで籠城している仲間は来世までも友達だ」などと書かれた「四郎法度」が、キリシタンの固い結束を今に伝えている。

二度目の矢文では、「命のみ助く」と最終通告。だが、四郎の母らを人質にしても、キリシタンたちの団結はくずれない。

籠城した約3万7000人の食料も尽きる頃、包囲軍は約12万人という圧倒的な数となっていた。ついに2月28日の総攻撃で、原城は陥落。四郎は、細川藩の徒士・陣ノ佐左衛門に首を打たれた。自由と平等を求めて戦った約3万7000人は、海を臨む原城に散った。

将軍と幕府を脅かしたキリシタンの信仰心

島原・天草の乱は、日本史上、最大規模の一揆かつ宗教戦である。キリスト教は“神の前の平等”を説く。幕府は、絶対的な存在であるはずの将軍の威光を損なうことを恐れた。乱の翌年から外国との交流を絶ち、それは220年も続いた。この乱によって、日本の進む方向が転換したといっても過言ではないだろう。

乱の後、伊豆守には、鎮圧の褒美として武蔵川越藩が加増された。しかし、菩提寺に「島原の乱で亡くなった者のすべての慰霊を致す」という慰霊塔を建立している。老中として、江戸幕府の体制を守るため、一揆軍を全滅※④させざるを得なかった彼の苦悩がにじむようだ。

※④ 生き残ったのは、幕府軍に内通した南蛮絵師の山田右衛門作のみ。陣中旗の作者と伝えられる。

島原・天草の乱を中心に、キリシタンの歴史をわかりすく展示。国指定重要文化財の天草四郎陣中旗は見逃せない。世界三大聖旗の一つでもある。

天草キリシタン館

天草市船之尾町19-52
tel 0969-22-3845
【開館】8:30〜18:00(入館は17:30まで)
【休館】12月30日〜1月1日
【入館料】一般300円、高校生200円、小・中学生150円
※団体割引は20名以上で2割引

潜伏キリシタン関連の史料が約500点。密かに信仰を続けた隠れ部屋の実物大ジオラマや、「経消しの壷」(県重要文化財)などが見ものだ。

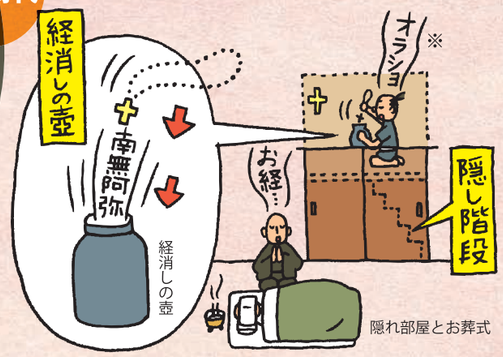
天草ロザリオ館

天草市天草町大江 1749
tel 0969-42-5259
【開館】8：30 〜 17：00
【休館】水曜(祝日の場合は翌日)、12/30〜1/1
【入館料】一般300円、高校生200円、小・中学生150円

鈴木重成

徳川家康や秀忠に仕え、島原・天草の乱にも参戦した。乱の後、天領となった天草の初代代官となる。彼は僧である兄・鈴木正三を天草に呼び、仏教の再建に努めた。正三の息子・重辰が、重成の養子になり、二代目代官となった。この二人の代官の訴えで、天草の苛酷すぎる重税が半減された(右ページ参照)。天草各地に重成を祀る鈴木神社があり、今でも本渡周辺では「鈴木様」と呼ばれ、慕われている。

江戸時代



隠れ部屋とお葬式

キリシタンが守り続けたもの

天草でも絵踏みが、毎年義務付けられた。発見されたキリシタンは、むごい仕打ちを受けた。命惜しさに踏む者もいたが、後でマリア様にお詫びのオラショを捧げたと自白書にある。
こうして、何百年も信仰を守り続けた。

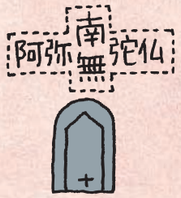
キリシタンは「仏教ではパライソ(天国)に行けない」と信じ、隠れ部屋で祈りを捧げていた。葬式では、僧の読経に合わせてオラショ ※⑤を唱え、聖水を満たした壷にロザリオを出し入れして、お経を消した。

※⑤オラショ…キリスト教の祈りの言葉

サンタマルヤの壷

加藤清正の像

密かに信仰を続けるために、キリシタンは様々に工夫した。「隠し十字紋」は、山(サン)・田(タ)・○(マル)・屋根の屋(ヤ)で、サンタマルヤ。聖マリア様を意味する。また、熱心な日蓮宗の宗徒である加藤清正の像を祀りながら、背中には十字架にかけられたキリスト像が彫り込んだものもある。



キリシタンのお墓

墓石も、例えば「南無阿弥陀仏」の文字で十字を切ったり、また戒名を削り(仏教徒であることを否定)、下に小さくクルスを刻んだりしている。これらは死後すぐに行われたのではなく、キリシタン弾圧がおさまった時代に子孫がしたのだろうと言われているが定かではない。

明治時代

1873年(明治6)、キリシタン禁制の高札撤去。ついに、信仰の自由が認められる時代だ。翌年には、大江教会創立。フェリエ神父によって、1884(明治17)に大江教会、1885年(明治18)に崎津教会が建堂された。

Amakusa

数百年の時を経て守り続けた祈り

どれほどの弾圧を受けようとも、
信仰を貫き通す、潜伏キリシタンたち。
そして徳川幕府がなくなり、
文明開化の新時代がやってくる。

乱の翌年 1639 年、最終的な鎖国令が発布。1641 年、幕府直轄の天領となった天草に、初代代官として就任したのが鈴木重成だ。乱の原因が、宗教だけではなく石高の異常な高さにもあると気づいた。1653 年、重成は幕府に年貢の半減を嘆願したが、聞き入れられないまま亡くなった（切腹して訴えたという説あり）。甥の鈴木重辰が二代目代官となり、重ねて石高半減を訴え、やっと実現した。

重成の訴えに驚いた幕府は、1654 年、天草各地にキリシタン宗門御禁制の高札を立てる。「ばて連の訴人銀五百枚」など密告の奨励をする高札だ。しかし、どれほど弾圧されようと、潜伏キリシタンたちは信仰を守り続けた。

約 150 年後の 1805 年、天草西海岸の4か村で、全村民の約半数にあたる約 5200 人がキリシタンだと発覚。これが「天草崩れ」である。

しかし預かり藩の島原藩や庄屋の上田源太夫宜珍（よしうず）※⑥が、「単なる宗門心得違い」という扱いにしたおかげで、全員が許された。これほど多くのキリシタン発覚および全員の無罪は、日本のキリシタン弾圧史上でも異例のことである。

1868 年の明治維新後、1871 年に、岩倉具視は大久保利通、木戸孝允、伊藤博文らと共にイギリスやフランス、オランダを回り、「日米修交通商条約は不平等だ」と交渉。しかし、キリシタン弾圧を知る各国から、「日本は人道に反する行為をしている。文明国として対等に付き合えと言うのか」と言われ、岩倉は、政府にキリシタン弾圧をやめるよう請願。ついに 1873年（明治 6 年）、高札が撤去され、信教の自由が認められた。

仏教を奨励した代官・鈴木重成が建てた天草四ヶ本寺の一つ、崇円寺

※⑥上田源太夫宜珍は、「天草崩れ」解決の功績によって、天草天領史上唯一、庄屋から大庄屋格に任命。高浜焼を発展させた。

この時代に、ヨーロッパから伝わったもの

イチジク　クレソン　ジャガイモ

イチジク

日本初のイチジクの木は、メスキータ神父によりポルトガルから運ばれ、1591年に天草の地に植えられた。そして天草では現在でも、夏から秋にかけて「南蛮柿(イチジク)フェア」が行われている。

Amakusa

近現代の天草に息づくキリシタン文化

20世紀の天草で、地元の信者と心を一つにして、教会を建設したガルニエ神父（ルドヴィコ・F・ガルニエ）。その神父に会いたいと、東京からやってきた若き作家たちもいた。

「パアテルさん」と呼ばれ、慕われたガルニエ神父。大江教会には銅像がある

禁教が解かれ、天草に神父が帰ってきた

1873年（明治6）にキリスト教が解禁になったとはいえ、まだ偏見が残っていた。しかしその後の大江教会創立を受けて、大江村の永田徳松ほか7名が改宗願いを出すなど信者は徐々に増え、今富村や崎津村にも広がっていった。

大江教会の創立年は1880年（明治13）。最初にマルマン神父が教会を建て、その後にフェリエ神父（J・B・フェリエ）が建てた。

さらに1885年（明治18）、フェリエ神父は崎津にも教会を建堂し、また今富村根引の山中に孤児院を開いた。フェリエ神父が鹿児島に転出し、その後任としてやって来たのがガルニエ神父だった。

教会建築に生涯を捧げた神父の姿に感銘を受ける

ガルニエ神父は、1860年、フランス生まれ。パリの大神学校を卒業し、1885年に神戸へ渡った。京都、長崎伊王島、上五島を経て、1892年、大江と崎津に着任。布教のために命懸けで船旅をし、遠い異国でつつましく暮らしていた。

さらにガルニエ神父は、大江教会をロマネスク風の立派な建物に改築するために、自らの生活費を切り詰めて建設費用にあてた。足りない分は、信徒に負担をかけないようにフランスの親族にも寄付を募ったという。そんな姿に、地元の人は喜んで労働力を提供したことだろう。ガルニエ神父は、「パアテルさん」と呼ばれ、慕われていた。

大江教会は1932年（昭和7）5月に起工し、1933年（昭和8）1月に完成した。同年3月25日にミサを行い、神に捧げた。そして1942年（昭和17）、ガルニエ神父は、愛した天草の地で82年の生涯を終える。

数百年の受難の時代を経て、今なおキリスト教が根付く天草。この地で、潜伏キリシタンの歴史を感じてほしい。

パアテルさんに会いたい！「五足の靴」たち

五足の靴の一行を撮影した記念写真
（故 濱名志松氏提供）

与謝野寛（鉄幹。与謝野晶子の夫）は、1907年7月下旬から8月末にかけて、九州を中心に各地を旅した。同行したのは、まだ学生だった太田正雄（木下杢太郎）、北原白秋、平野万里、吉井勇らだ。東京から来た目的は、異国の地 天草でつつましく暮らしながら布教に努めるパアテルさんに会うこと。天草のキリシタンの史跡や豊かな自然に心打たれて書いた旅行記は、同年『五足の靴』として東京二六新聞紙上で29回にわたり連載された。この5人は、後に日本の文学界をリードする作家へと成長する。

大江教会

布教に一生を捧げたガルニエ神父が、天草の信者と心を一つにして建てた白亜の教会。ロマネスク風の建築は、日本の大工職人・鉄川与助による。はじめは教会建築の技を宣教師に習ったが、高温多湿で海風が吹くなど、日本の気候風土に合わせた建築技術を編み出したのが鉄川与助である。彼の手がけた教会は、国指定重要文化財になっているものも多い。

問い合わせ ☎0969-22-2243（天草宝島観光協会）
熊本県天草市天草町大江1782
開館:9:00～17:00（日曜は11:30～）
休:毎週月曜日（祝日の場合翌火曜日）
※住所と問い合わせ先は異なります。
上記の電話番号検索では大江教会に到着しませんので、ご注意ください。

モデルルート
Model Root

天草キリシタン館
▼🚗45分
天草コレジヨ館
▼🚗10分
崎津集落
▼🚗15分
大江教会・ロザリオ館
▼🚗10分
十三仏公園
▼🚗10分
下田泊

下田
▼🚗20分
富岡吉利支丹供養碑
▼🚗5分
アダム荒川殉教の地
▼ 徒歩5分
富岡城
▼🚗20分
鬼池港

本渡バスセンター
☎0969-22-5234
天草エアライン
☎0969-34-1515

その他の構成資産
佐世保市：・黒島天主堂　平戸市：・平戸の聖地と集落（春日集落と安満岳、中江ノ島）・田平天主堂
五島市：・旧五輪教会堂・江上天主堂　小値賀町：・野崎島の野首・舟森集落跡　新上五島町：・頭ヶ島天主堂

観光に関するお問い合わせは　一般社団法人 天草宝島観光協会　http://www.t-island.jp Tel 0969-22-2243　Fax 0969-22-2390

掲載情報は、2015年3月現在の情報です。変更になる場合がありますので、ご確認ください。

Amakusa

キリスト教伝来から近代までの年表

西暦（元号）	事項 or 出来事
1543（天文12）	ポルトガル人の船が種子島（今の鹿児島県）に漂着。鉄砲伝来。
1549（天文18）	フランシスコ・ザビエルが鹿児島に上陸。日本にキリスト教を伝える。
1566（永禄9）	志岐麟泉の乞いにより、ルイス・デ・アルメイダ修道士が派遣される。麟泉受洗。
1570（元亀元）	ポルトガル船、志岐に入港。
1573（天正元）	室町幕府滅亡。
1579（天正7）	ヴァリニャーノ、口ノ津（今の長崎県）に来航。
1582（天正10）	天正少年遣欧使節団、日本を発つ。
	本能寺の変で、織田信長が明智光秀に討たれる。
1583（天正11）	アルメイダ修道士、河内浦(今の天草市河浦町)で昇天。
1587（天正15）	豊臣秀吉が九州征伐。バテレン追放令。
1588（天正16）	キリシタン大名・小西行長が宇土の領主となる。
1589（天正17）	小西行長と加藤清正が天草に侵攻。
	志岐・本渡落城。天草五人衆の時代は終わる。
1590（天正18）	豊臣秀吉が全国を平定。
1591（天正19）	加津佐のイエズス会コレジヨを河内浦に移設。天正少年遣欧使節団の持ち帰った金嘱活字印刷機により、天草本の出版開始。
1592（文禄元）	豊臣秀吉の朝鮮出兵（文禄の役）。志岐に美術工藝学校開設。
1597（慶長2）	コレジヨ長崎移転。
1600（慶長5）	関ヶ原の戦い。小西行長敗死。
1601（慶長6）	天草全島、唐津城主寺沢志摩守広高の所領に。
	富岡に築城し、城代を置く。
1603（慶長8）	徳川家康、江戸に幕府を開く。
1613（慶長18）	全国に禁教令を発す。
1614（慶長19）	志岐教会のガルシア・ガルセス、上津浦教会のマルコス・フェラロ両神父、高山右近らと国外追放。
	ママコス上人（マルコス・フェラロ神父）が20余年後の天草を予言したという。
1615（元和元）	大坂夏の陣、豊臣氏滅亡。天草領主、寺沢志摩守キリシタン信徒に転宗を強制。
1616（元和2）	天草の検地で、3万7000石余と規定。これを基準に重税を課す。
1629（寛永6）	富岡城番代、三宅藤兵衛、志岐の「いばらの獄舎」にキリシタン210余人を投獄。
1633（寛永10）	鎖国令発布。「キリシタン転び証文」を取る。
1635（寛永12）	天草に大型台風。凶作飢饉。
1636（寛永13）	天草で凶作飢饉が続き、餓死者続出。
1637（寛永14）	天草四郎を総大将とし、島原・天草の乱が勃発。
1638（寛永15）	島原の原城に籠城した一揆軍3万7000人が散る。
1639（寛永16）	最終的な鎖国令。
1641（寛永18）	天草は幕府直轄の天領となり、初代代官の鈴木重成就任。絵踏み開始。
1647（正保4）	鈴木重成、富岡に千人塚を建立し戦没キリシタンを供養。
1653（承応2）	鈴木重成、天草の石高半減を幕府に嘆願し、死亡。
1654（承応3）	キリシタン宗門御禁制の高札、天草各地に立つ。
1659（万治2）	二代目代官、鈴木重辰の進言で石高半減。
1687（貞享4）	キリシタン類族改め令発布。
1750（寛延3）	「転切支丹（ころびキリシタン）并類族死失帳」の整備。
1805（文化2）	天草西海岸の、大江・﨑津・今富・高浜に潜伏キリシタン約5200人発覚。「天草崩れ」と言われる。
1859（安政6）	横浜・長崎の開港
1868（明治元）	明治維新。浦上信徒3414人総流罪。
1873（明治6）	キリシタン禁制の高札撤去。信教自由の時代を迎える。
1880（明治13）	大江・﨑津教会設立。
1884（明治17）	フェリエ神父、大江教会建堂。
1885（明治18）	フェリエ神父、﨑津教会建堂。
1892（明治25）	フェリエ神父、鹿児島に移転。後任はガルニエ神父。
1907（明治40）	与謝野寛や北原白秋ら五足の靴の詩人たちがガルニエ神父を訪問。
1933（昭和8）	ガルニエ神父、大江教会（ロマネスク風）を建堂。
1934（昭和9）	ハルブ神父、﨑津教会（ゴシック風）を旧庄屋跡に建堂。

一般社団法人
天草宝島観光協会
Treasure Island
http://www.t-island.jp
〒863-0023 熊本県天草市中央新町15番7号
Tel：0969-22-2243　Fax：0969-22-2390